

「分析アジア哲学台湾派遣参加報告書」

京都大学文学部・非常勤講師 伊藤 遼

①学習成果

台湾内外の研究者の発表や彼らとの意見交換を通して、世界の研究の最前線（特にいわゆる「心の哲学」や「現象学」と呼ばれる分野におけるそれ）を窺い知ることができた。さらに、こうした経験を通じて、自らの研究の枠組みをこれまで以上に広げて行きたいと考えるようになった。

②海外での経験

9日間の滞在で、2つの国際学会と3つの国際ワークショップに参加ということで、大変充実した8日間であった。またそれぞれの研究集会の後、現地の教員・ポスドク・大学院生らとの懇親会に積極的に参加し、ネットワーキング活動を行った。現地で会った多くの人が（以前からの友人も含めて）とても親切であった。彼らとの交流を今後とも継続してゆきたい。

③プログラムの内容

- 1 日目は、関西国際空港を経由して、台北市へと移動した。
- 2 日目は、国立政治大学 (National Chengchi University) にて、*Selfhood, Otherness, and Cultivation: Phenomenology and Chinese Philosophy International Conference* (1 日目) へ参加した。心の哲学や現象学の専門家が世界中から集まっており、彼らの講演を聞くことは大きな刺激となった。
- 3 日目は、京都大学在籍時代の指導教官であった出口康夫教授が中央研究院 (Academia Sinica) で行った講演に出席した。
- 4 日目は、国立政治大学 (National Chengchi University) にて、*Selfhood, Otherness, and Cultivation: Phenomenology and Chinese Philosophy International Conference* (3 日目) へ参加した。
- 5 日目は台中市に日帰りで移動し、同市内にある東海大学 (Tung-Hai University) において、*Tung Hai -Kyoto University Graduate Exchange Workshop in Philosophy 2019* に出席した。
- 6 日目は陽明大学 (Yang-Ming University) において、*Mini Yang Ming -Kyoto Workshop* に参加、“Towards A Realist Interpretation of Propositional Functions in Principia Mathematica” という題目にて研究発表を行った。現地の教員や院生との交流を深めることができた。
- 7 日目は国立台湾大学 (National Taiwan University) において、*Kyoto-NTU Philosophy Colloquium of Graduate Students: Self, Subjectivity and Consciousness* に出席、“The Linguistic Turn and Russell’s Egocentric Predicament” という表題で研究発表を行った。発表された論文は、*Proceedings of Kyoto-NTU Philosophy Colloquium of Graduate Students: Self, Subjectivity and Consciousness* に収録されている。また、研究発表のみでなく、現地院生の発表を聞くことができ、彼らと研究に関する意見交換を行うことができた。
- 8 日目は国立台湾大学所属のポスドク研究員との交流を行った。
- 9 日目は、早朝に台北市を出発し、関西国際空港を経由して、帰国した。

④進路への影響

研究者・大学教員を目指すという点で進路に変わりはないが、上述のように、自らのこれまでの専門からより幅広い分野へと研究を広げて行きたいとますます思うようになった。